

バスケットボールのアウトサイドシュートにおける パスアシストの拠点に関する一考察

請田 佳彦 (富山大学)

1. 目的

本研究の目的は、日下部らの研究をもとに北信越大学男子バスケットボールレベルにおけるアウトサイドシュート時のアシストパスがどこから展開されているのかを明らかにすること。次いでアウトサイドシュート時の攻撃パターン別に見たシュート試投数や成功数と勝敗数を比較することで、北信越レベルにおける勝敗の要因について検討することである。

2. 研究方法

- 1) 対象：2018年度第52回笹本杯争奪北信越大学バスケットボール春季リーグ戦大会1部リーグ上位4チームの全6試合と、2018年度第52回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選の決勝リーグに進出した4チームの全6試合、計12試合とした。
- 2) 調査方法：本研究では、対象となる試合をビデオカメラで観客席から撮影し、それをもとにデータを記録用紙に記入し集計を行った。
- 3) 分析方法：SETにおけるアウトサイドシュートの中でインサイドアウト（以下I→O）、アウトサイドでのパスからのシュート（以下O→O）、ドリブルを用いたシュート（以下dribble）の試投数、成功数、失敗数の値を算出した。また、アウトサイドをトップ（A）、右ウイング（B）、左ウイング（C）、右コーナー（D）、左コーナー（E）の5つ、インサイドをハイポスト（X）、右ローポスト（Y）、左ローポスト（Z）の3つのエリアに分けた。
- 4) 統計処理： χ^2 検定を用いて比較検討し、有意水準は $p < 0.05$ とした。

3. 結果と考察

- 1) パスエリア別に見た試投数、成功数
I→Oでは、右利きのプレイヤーが利き手のドリ

ブルでボールをコントロールしやすいZでのパスが多くなったと考えられる。(表1)

O→Oでは、左右どちらにもパスを供給しやすいAからのパスが最も多い結果となった。(表2)

表1 I→Oのパスエリア別に見た試投数、成功数

	X	Y	Z
試投数	8	15	27
成功数	2	1	7

表2 O→Oのパスエリア別に見た試投数、成功数

	A	B	C	D	E
試投数	157	82	84	13	22
成功数	43	19	27	5	6

- 2) SETにおけるI→O、O→O、dribbleの比較
上位2チーム、下位2チーム間の成功数、失敗数についてI→O、O→O、dribbleでそれぞれ χ^2 検定を行ったところO→O、dribbleでそれぞれ有意差が見られた。(p<0.05)

4. 結論

本研究では、以下のことが明らかとなった。日下部らの研究からNBAにおいてはI→Oはハイポスト、O→Oはトップからのアシストパスが多かったが、北信越大学男子レベルにおいては、I→Oは左ローポスト、O→Oはトップからのアシストパスが多くなる傾向がみられた。上位2チーム、下位2チーム間のO→O、dribbleの成功数、失敗数に有意差が見られたことから、北信越大学男子レベルではO→O、dribbleが勝敗の要因となっていた。

5. 主な参考文献

- 1) 日下部未来、神林勲 (2006) バスケットボールにおけるアウトサイドシュートに関する一考察、北海道教育大学年報いわみざわ、28、p.61-66